

助動詞 「す」「さす」「しむ」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
しむ	さす	せ	せ	す	する	せよ
しめ	させ	させ	させ	さす	さする	されよ
しめ	しめ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ
しむ	しむ	しむ	しむ	しむる	しむれ	しめよ

◇接続

「せ」「さす」「しむ」は全て未然形接続になる。「せ」は四段・ナ変・ラ変の未然形、「さす」はそれ以外の動詞の未然形、「しむ」は全ての活用語の未然形に接続する。

◇意味

① 使役 「～させる」

：他人に何かをさせるときに使う助動詞。ほとんどが単独で使われている。

例) 「さるは、たよりごとに、ものも絶えず得させたり。」（土佐日記）
（「そなへはいふものの、機会があることに、品物も欠かさず与えていた。」）

② 尊敬

：「給ふ」や「おはす」などの尊敬語を伴うことが多い（天皇などに対する敬意を表す）。

例) いといたくあはれがらせ給ひて、物も聞こしめさず。（竹取物語）
（たいへんしみじみとあわれにお感じなされて、お食事も召し上がるだす）

◇「せ」の識別

① 過去の助動詞「き」の未然形

→ 連用形接続（例外あり）なので、上の語の活用形で判断。多くは「せば…まし」の形になる。

② 使役・尊敬の助動詞「す」の未然形・連用形

→ 未然形接続なので、上の語の活用形で判断。

③ サ行変格活用の未然形

→ 動詞として使われている場合、文脈から判断する。基本的には②と③の判断